

他自治体における 公共施設再編事例のご紹介

参考事例① 武蔵野プレイス（東京都武蔵野市）

- 図書館、カフェ、生涯学習支援（スタディコーナー、ワーキングデスク等）、市民活動支援（会議室等）、青少年活動支援（スタジオ等）などが一体となった複合施設



【施設概要】

・延床面積／9,809.76㎡

・開館時間：9：30～22：00、休館日：毎週水曜日 ・構造／SRC造、RC造 地上4階・地下3階 1

参考事例① 武蔵野プレイス（東京都武蔵野市）

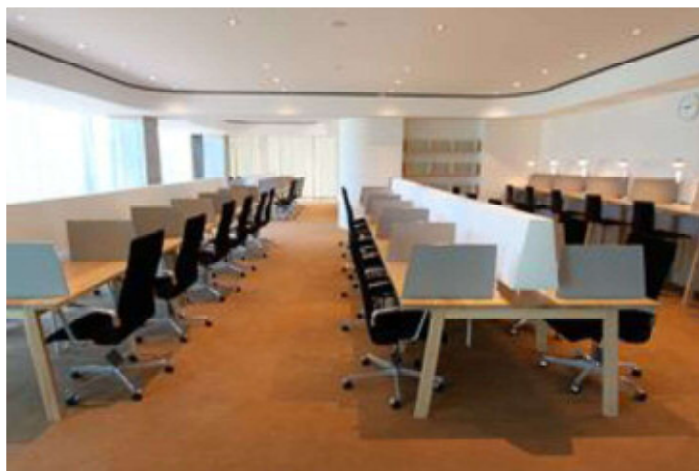


メインライブラリー



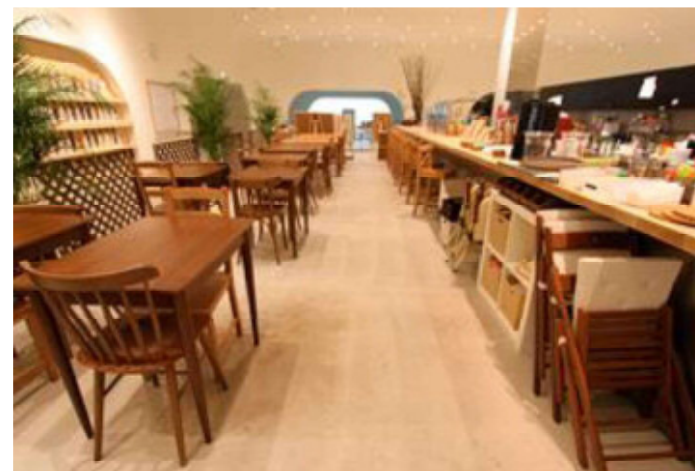
サウンドスタジオ

地下2階は、ティーンズスタジオで、
青少年の居場所（ダンス・バンドの練習など）



ワーキングデスク

3階は、ワークラウンジ（市民活動フロア）
となっている



カフェ

1階入り口に、総合受付・ギャラリー・
カフェなどがある

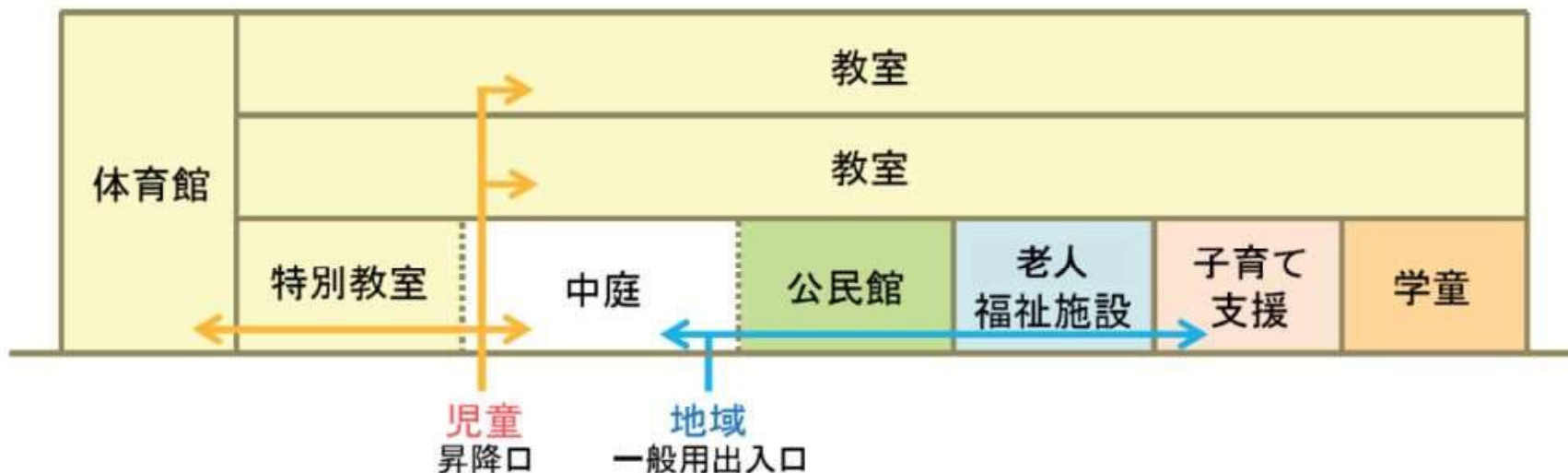
参考事例② 吉川市立美南小学校（埼玉県）

- 新しい住宅地に求められる学校施設を含めた公共施設の整備
（小学校と、公民館、高齢者ふれあい広場、子育て支援センター、学童保育室の複合化）



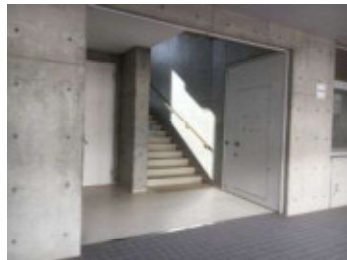
- 学校規模／ 17 学級 527 名
（特別支援学級／ 2 学級 5 名）
- 複合施設(床面積)／ 小学校 (8,134㎡)
公民館 (299㎡)
高齢者ふれあい広場 (182㎡)
子育て支援センター (105㎡)
学童保育室 (358㎡)
- 整備時期／ 平成 24 年
- 構造／ RC 造地上 3 階建て

< 立面図 >



参考事例② 吉川市立美南小学校（埼玉県）

<1階平面図>



4箇所の階段で、3階まで行くことができる。
学校運営時間以外は、階段の防火扉を閉めて外部から侵入できないようにしている。

階段

洋会議室



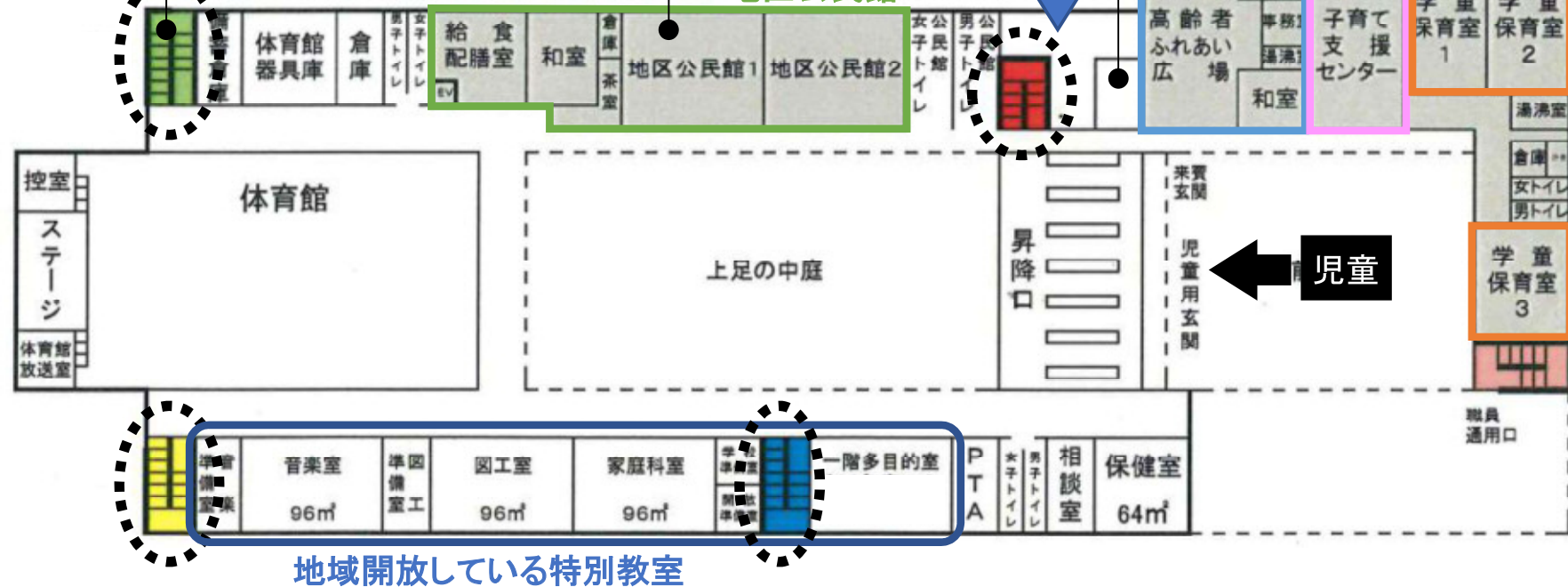
事務室



高齢者ふれあい広場



地区公民館



地域開放している特別教室

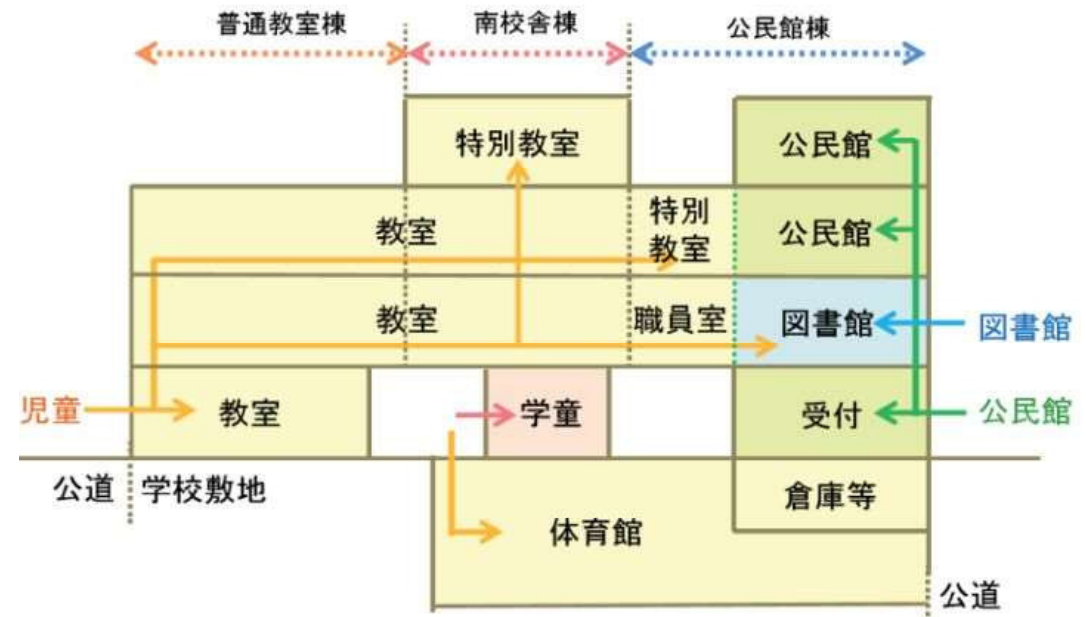
参考事例③ 志木市立志木小（埼玉県志木市）

- 志木小学校と、近接公民館・図書館の建物の老朽化・耐震化問題解決のため、学社融合施設を整備。
- 施設の相互利用により、児童と地域の学習活動の幅が拡大した。



- 学校規模／ 22 学級 677 名
（特別支援学級 2 学級 7 名）
- 複合施設(床面積)／小学校 (10,489㎡)
公民館 (1,704㎡)
図書館 (1,034㎡)
- 整備時期／平成 15 年
- 構造／SRC 造地下 2 階地上 4 階

<立面図>



参考事例③ 志木市立志木小（埼玉県志木市）

平面計画上の特徴



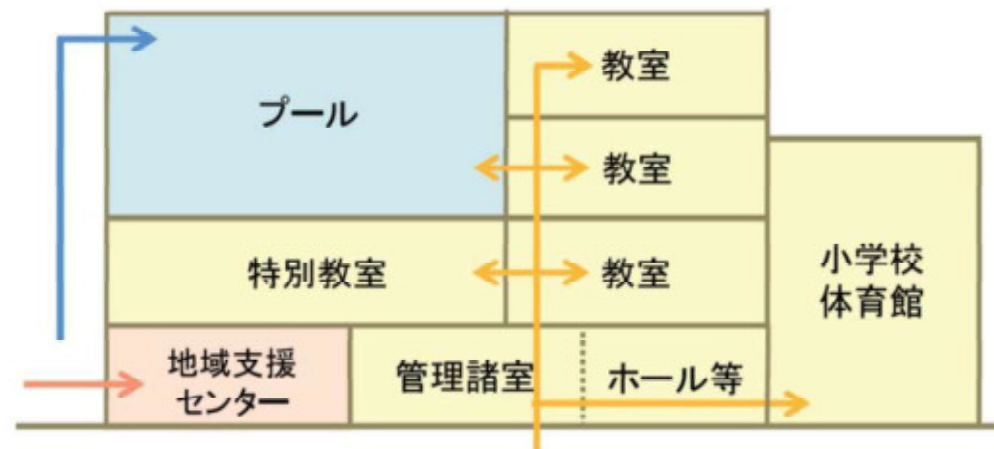
参考事例④ 目黒区立碑小学校（東京都目黒区）

- 小学校と地域に必要な出張所、地区プールを複合化
- 民間のビル管理会社が、屋内プールだけでなく学校施設全体の保守点検も行っている。



<立面図>

凡 例



- 学校規模／ 17 学級 559 名
（特別支援学級／ 3 学級 18 名）
- 複合施設（床面積）／ 小学校（7,830㎡）
地区プール（1,462㎡）
目黒区出張所・
地域包括支援センター（500㎡）
地域防災用備蓄倉庫（51㎡）
- 整備時期／ 平成 19 年
- 構造／ RC 造一部 S 造地上 5 階

参考事例④ 目黒区立碑小学校（東京都目黒区）

1F

エレベーターで
直接4階プールへ

学校施設とは
分離されている

学校開放部分

区出張所

保健福祉
サービス
事務所

くすの木
ホール

地区サービス
事務所

体育館

教室
管理室

学校開放時は
扉を閉める

学校開放用
の出入口

凡 例



→ 小学校



→ プール・プール利用者



→ 行政機関出張所



→ 地域



→ 学校開放

参考事例⑤ 都城市中心市街地施設「MALL MALL」(宮崎県都城市)

- 経営破たんした商業施設を図書館等の複合施設に転用。
- 図書館、子育て活動支援センター、未来創造ステーション・まちなか交流センター・保健センター等の複合施設となっている。



<階数>

RC造(免振)、地上5階、地下1階

<延床面積>

約10,900㎡、図書館8,046㎡(蔵書30万冊)

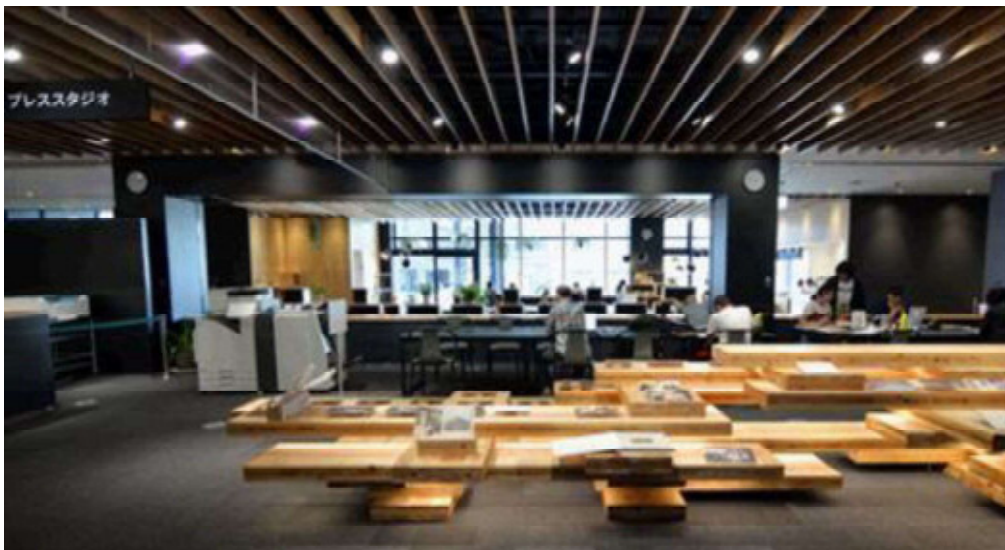
参考事例⑤ 都城市中心市街地施設「MALL MALL」（宮崎県都城市）



屋根付きのイベント広場「まちなか広場」



2階に10代しか使えない居場所を提供
「ティーンズスタジオ」：
宿題を教え合ったり、調べ物をしたりするスペース



市民が地域の情報などを発信するプレススタジオ

参考事例⑥ 瀬戸市立にじの丘学園（愛知県瀬戸市）

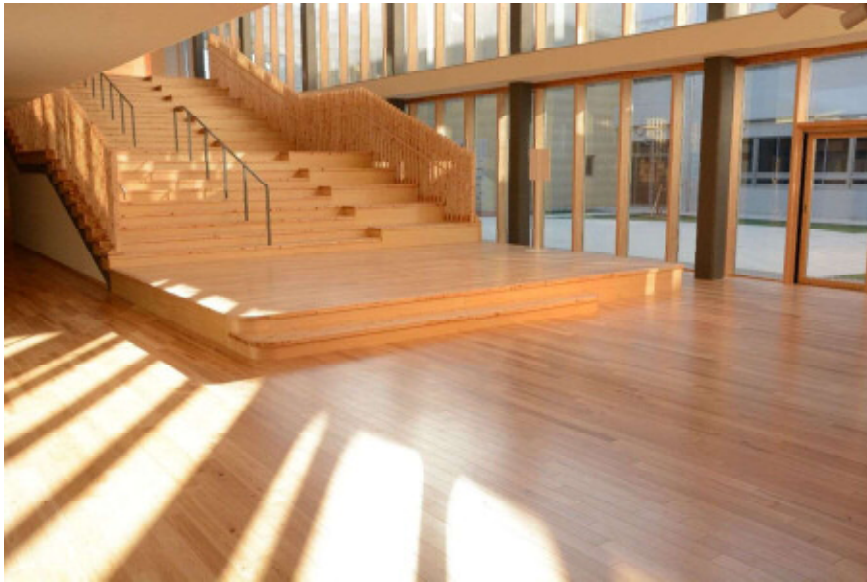
- 中心市街地の少子化問題を解決するため、五つの小学校と二つの中学校を一つにする全国でも珍しい大規模な統合で、2020年4月に開校
- 人口約13万人の瀬戸市には、統合前は小学校は20校、中学校は8校あった。廃校舎のうち一つは私立小学校に。残りは福祉や防災の拠点にするため、地域で活用法の検討が進む



- 学校規模（令和3年度）
小学校：1学年3～4学級
計689人
中学校：1学年2～4学級
計245人



参考事例⑥ 瀬戸市立にじの丘学園（愛知県瀬戸市）



さまざまな児童生徒が交流する階段



登下校に路線バスを使う



おんぶやだっこで触れ合っている児童生徒



理科ボランティア（実験をサポート）

参考事例⑦ (仮称) 川崎市民館・労働会館 (神奈川県川崎市)

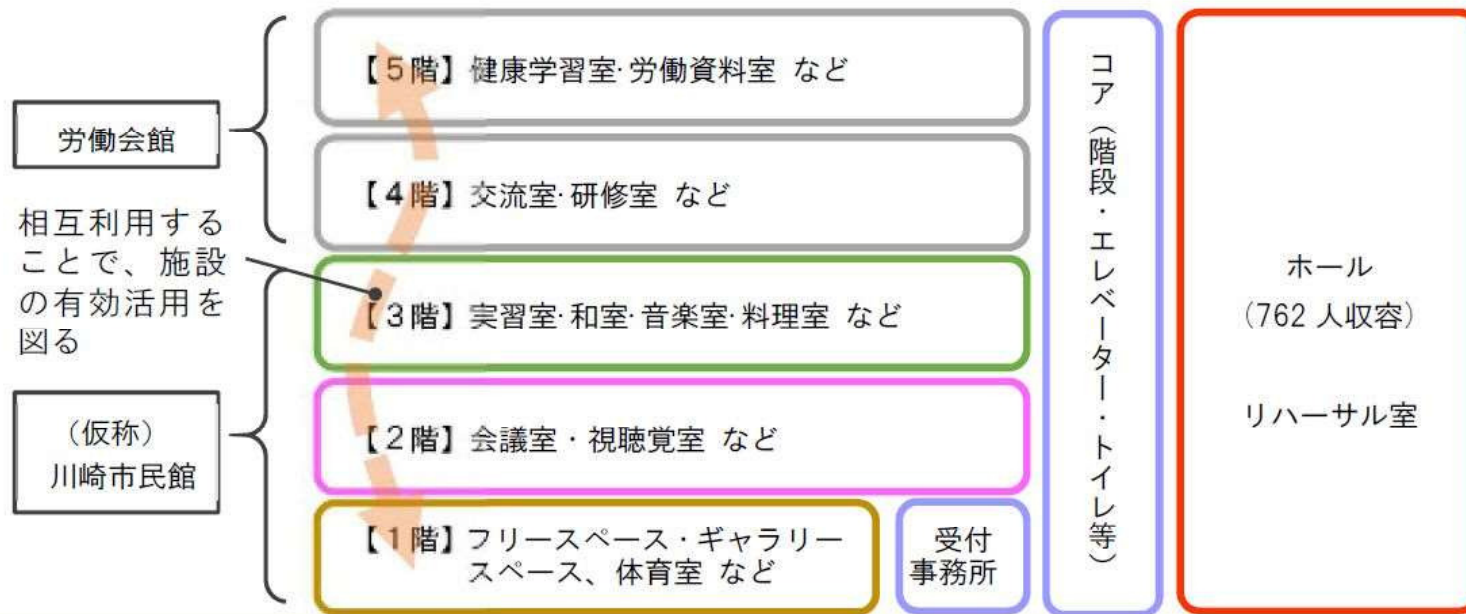
- 老朽化した教育文化会館の機能を、直線距離で約400メートル離れた類似施設の労働会館同会館に、機能移転した例。
- 5階建ての労働会館の1～3階に教育文化会館の機能を移し、労働会館の機能は主に4、5階に集約。改修工事を行った上で、2022年度の供用開始を目指す。



教育文化会館

参考事例⑦ (仮称) 川崎市民館・労働会館 (神奈川県川崎市)

《フロア構成イメージ》



外観イメージパース：
(仮称) 川崎市民館・労働会館

